



WICI シンポジウム 2015 の開催にあたって

開催趣旨

- 経営のあり方が社会との関係で変わりつつある昨今、企業の持続的な価値創造についても、殊にそれを支えるステークホルダーとのコミュニケーションについて、スマートフォンの急速な普及などにより世界的な変革が求められ始めています。
- 日本では、コーポレート・ガバナンスの整備を通して民間投資の健全性を確保し企業の持続的成長を促すうえで、中長期的な視座から経営者のメッセージを的確に表現し、企業の価値創造についてのステークホルダーの適確な理解を通して、企業活動への共鳴を得ることが挙げられている。そのためのコーポレート・コミュニケーションのあり方が、持続的な成長の鍵を握ることへの認識が深まりつつあり、日本における統合報告書公表会社は 200 社を超える勢いです。
- このような大きな変化の中、国際統合報告評議会 (IIRC) より 2013 年 12 月に公表された「国際統合報告フレームワーク」には、WICI(World Intellectual Capital/Assets Initiative)が 2007 年の発足当初より提唱してきた「見えざる経営資源である知的資産こそが企業価値の源泉である」との主張が強く反映されています。
- 世界的に統合報告がそれぞれの経済圏の実情を踏まえながら普及・進化するなかで、WICI が主張してきた企業の強みであり差別化要因である知的資産について、それらがどのように「相互に関連」かつ「つながり」価値創造活動に活かされているのか否か、個々の日本企業の実情を踏まえて、これをどのように表現・伝達し、そして重要なステークホルダーと対話していくかについて、企業人、機関投資家、行政人、アカデミア、監査法人に登壇いただき、「企業開示を通じた経営革新」について多面的に検討する機会を提供すべく、来る 12 月 4 日(金)に終日にわたり、“価値創造プロセスを共有して社会を変革する～統合報告の力～”を統一テーマにして、国際文化会館の岩崎ホールとその関連施設において「WICI シンポジウム 2015」を経済産業省の後援を得て、IIRC と共催いたします。

開催日時等

開催日時：2015 年 12 月 4 日 (金)

シンポジウム : 9:30~18:00

レセプション : 18:30~20:00

会場：国際文化会館 岩崎ホール

〒106 - 0032 東京都港区六本木 5 - 11 - 16

電話： 03-3470-4611 Fax： 03-3479-1738

URL: <http://www.i-house.or.jp/>

プログラム概要

➤ 統一テーマ：“価値創造プロセスを共有して社会を変革する～統合報告の力～”

➤ 基調講演：「統合報告の展開方向(仮題)」 IIRC Council Member(人選中)

➤ メイン会場セッション1：「日本における統合報告開示の展開～現状と課題～」

どういう目的で、どの読者を対象に統合報告書を作成したのか。その際、財務情報の位置づけをどのように考えたか。統合報告書の公表後の効果について、発行体からの登壇者が発題し、その作成上の留意点および工夫を制作会社からの登壇者が披露し、その利用者である投資運用機関からの登壇者が評価するとともに、統合報告書の今後の課題と方向性について意見交換する。

モデレーター：手塚 正彦(有限責任監査法人トーマツ 統合報告アドバイザリー室長)

パネリスト：統合報告書作成発行体、機関投資家ファンドマネジャー、AR 作成会社代表、IIRC 関係者

➤ メイン会場セッション2：「統合報告を活きた情報へ-Intangibles 対 Tangibles, Connectivity, Outcome さらに「企業価値」の概念を読み解く」

統合報告書を作成する発行体が 200 社を超えるなか、発行体における投資家をはじめとして内外のその他のステークホルダーがそこで提供されるデータをそれぞれの意思決定あたり活きた情報にするためには、さらにステークホルダーの理解を深めることが欠かせない。その鍵は、統合報告に関わる主要な概念で十分に整理されていないものを読み解くことが握っている。

モデレーター：芝坂 佳子(あずさ監査法人 パートナー)

パネリスト：統合報告書作成発行体、会計学研究者、公認会計士、IIRC 関係者

➤ 第 3 回 WICI 統合報告優良企業賞受賞企業の発表と表彰式

➤ メイン会場セッション3：「統合報告書利用者に発行体の将来を想定してもらうには～企業の将来をデザインし、今を経営する～」

過去を知り、今を理解したステークホルダー自らが発行体の将来を想定するためのデータ提供こそが統合報告の使命である。発行体やアナリストが提供する「業績予想」もそのための参考データでしかない。ステークホルダーの合理的意思決定を支えるには、経営トップが自ら企業活動の将来をデザインし、今に引き戻す道筋を確認しながら、将来へのストーリーを「未来日記」として語ることが求められている。

モデレーター：三富 正博(㈱バリュークレイト パートナー、公認会計士)

発題者：佐藤 ナオキ(nendo オフィス代表)

パネリスト：PwC あらた監査法人メンバー、太陽有限責任監査法人メンバー、IIRC 関係者

➤ メイン会場セッション4：「CSR の再確認と統合報告の活用」

わが国では CSR 問題が意識された時代背景から ESG 開示こそが CSR を履行した証であるとされてきたところがあります。確かに、地球環境保全、人権擁護等の社会的課題、経営の規律確保が解決すべき喫緊の課題ではありますが、その取り組み成果があれば、果たして企業の社会責任が履行されたことになるのだろうか？ 統合報告を活用することにより CSR がどのように遂行できるのかを、改めて確認する。

モデレーター：牛島 慶一(新日本有限責任監査法人)

パネリスト：CSR 報告書作成発行体、コーポレート・ガバナンス専門家、公認会計士、IIRC 関係者

▶ **メイン会場ファイナルセッション:「統合報告をステークホルダーとのコミュニケーション手段として活用する成長戦略の展開」**

公開会社においては、株主資本主義を根拠に短期利益の追求に走るショートターミズムが資本市場の大勢になるばかりでなく、企業の機能別組織の硬直化が進み経営の阻害要因になっている「サイロ問題」が深刻化するなどにより、ステークホルダー間の公平な分配が妨げられ、事業のビジネス・サイクルに合わせた中長期的な企業発展をいよいよ困難にしている。他方、経済の新たな成長機会をもとめるベンチャー・ビジネスにおいても成長を支える要因を体系的に捉えデータ化する方策が未だ確立しないまま先を急ごうとしている。この現状を打開するため、「知的資産経営」「統合思考経営」「コーポレート・ガバナンス」「ベンチャーによる新たな価値創造」に関心を寄せ、それぞれの問題意識と展開方向を異にしているが、それぞれの運動を推進してきた人物が一堂に会し、ステークホルダーそれぞれが利害得喪を確認し、互いの立場の理解を深める場を形成していくコミュニケーション・ツールとして統合報告を活用する可能性を論じるとともに、相互の連携を図る可能性を探ることにはしたい。

モデレーター : 住田 孝之 (経済産業省商務流通保安審議官、WICI ガバナンスグループ)

発題者: WICI ジャパン主任研究員

パネリスト: IIRC 執行責任者、コーポレート・コミュニケーション担当執行役、ガバナンス関係弁護士、ベンチャー・ビジネス育成支援者

・メイン会場と平行して開催するコンカレントセッションでは、統合報告とその背景に関する基本事項を明確に捉え、統合報告に関する IIRC およびその他組織の活動への理解を深めることを支援するとともに、参加者の身近なところで相談に乗ってくれるシンポジウム協賛組織の活動紹介を行う。

2015 年 10 月 吉日

WICI Global Chair

Stefano Zambon

WICI ジャパン会長

長友 英資